

令和4年

第9回新温泉町教育委員会会議議事録

(令和4年9月30日開催)

新温泉町教育委員会

## 令和4年第9回新温泉町教育委員会会議録

- 1 日 時 令和4年9月30日（金）午前10時00分～午前11時52分
- 2 場 所 奥八田交流館 みあけ
- 3 出席者 西村教育長  
(委 員) 宮口教育長職務代理者 中村教育委員 山本教育委員 阪本教育委員  
(事務局) 中島こども教育課長 谷淵生涯教育課長、樹岡こども教育課参事  
西脇生涯教育課副課長、吉田こども教育課長補佐兼教育総務係長
- 4 会議録署名委員 中村教育委員 山本教育委員
- 5 傍聴者 0人
- 6 議 事  
日程第1 会期の決定  
日程第2 会議録署名委員の指名  
日程第3 前回会議録の承認  
日程第4 教育長報告及び所管事務報告  
日程第5 次回新温泉町教育委員会日程について

\*\*\*\*\* 開会 午前10時00分 \*\*\*\*\*

○西村教育長 只今より令和4年第9回新温泉町教育委員会を始めさせていただきます。本日は、教育委員4名全員の出席ということで、会議は成立しております。今日は場所を変えまして、奥八田交流館みあけに来ていただきまして、先ほどは施設の説明を受けたところです。彼岸も過ぎまして朝晩寒くなってきておりますが、9月の小中学校の運動会も無事に終わることができまして、ほっとしているところです。10月にはこども園の運動会がありますが、園児たちは一生懸命練習しているということですので、子どもたちの輝く笑顔が見たいなと思っています。本日も教育委員の皆様のご意見等、いろいろいただきながら進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。それでは、日程第1の会期の決定についてです。本日の正午までの1日間としたいと思いますが、ご異議ございませんか。（「はい」の返事有り）異議なしということで進めさせていただきます。次に日程第2の会議録署名委員の指名ですが、中村委員と山本委員をお願いいたします。次に日程第3の前回会議録の承認を阪本委員

をお願いします。

○阪本委員 簡潔に整理され正確に記載されていたことを報告します。

○西村教育長 ありがとうございます。それでは、日程第4 教育長報告及び所管事務報告に進めさせていただきます。先ず私のほうから教育長報告をさせていただきます。（別紙「教育長報告」及び議事日程資料1 ページを説明）

○西村教育長 以上で報告を終わります。ここまでの報告でご質問等ございましたらお願いいたします。山本委員。

○山本委員 先ほどの報告の中で、9月14日に第三の居場所づくりの視察で岡山に行かれたということですが、説明の中に出ていましたこども食堂のことについて、将来的に開設する方向で考えておられるのでしょうか。それから、9月28日に教育支援委員会が行われたということで、各校からいろんな要望も出されたと思うんですけども、新温泉町は非常に多くの方を現場に入れて、支援にすごく力をいれておられると思っているんですけど、各校から支援を要請する声は今以上に上がってきているのかということ。上がってきているのであれば、それを実現するための予算措置は可能なのかということ。今でもかなりの人件費だと思うんですけど、今後も膨らんでいくようであれば、そういったことは可能なのかということをお聞きしたい。それから、29日に南小のコミュニケーション授業を視察されたということや、10月18日にもコミュニケーション・ワークショップが記載されていますけれども、このコミュニケーション・ワークショップというのは、県の事業なのか、新温泉町が独自に子どもたちに力をつけるために取組を始められたのかということを教えてください。

○西村教育長 1点目ですが、生涯教育課長と西脇副課長とで行ってきました。実は、B&G財団の補助がいろんな項目でありまして、第三の居場所としてこども食堂が新温泉町でできたらいいなとずっと思っていたんですけども、そういったことがB&G財団の補助をいただきながらできるのであればという思いで視察に行ってきました。そこはチャイルドホームという名前で、子どもたちが学校を終えて帰ってきて、この施設で施設の皆さんと交流しながら2時間を過ごしていたんですけど、言えば児童館がそこにあって、そこに放課後児童クラブがあってというような、そういう複合的な運営をされていました。そこで地域の方も入っておられましたし、本当にいい施設だなと思いました。ただ、こども食堂ということでは、実際にはされていなかったと思います。

- 西脇副課長 子ども食堂は年間に2、3回、イベント的にやっておられるということでした。奈義町はコンパクトな町で、1万人を切るような町なので、そういう対象者が多いわけではないということがあります。ただ、ニーズとしてはあるので、定期的にそういったところはやっていきたいとは思っておられるようです。目指すところとしまして、新温泉町でもこども食堂はやるべきだとは思いますが、ただ、定期的というよりはイベント的に先ずはやっていく。あと、奈義町では、こども・長寿課という部署が担当されていて、B&Gの補助や町長部局との連携をしっかりとされていていました。新温泉町としても、社会福祉協議会とか福祉担当のほうの間口が広いというふうに思いますし、一番理想的かなと思います。
- 西村教育長 いろいろハードルはあるようです。
- 山本委員 放課後に子どもたちを受け入れたり、この前もテレビ番組で、関東のほうでしたが、子どもたちがそこに行って好きなことをするというような施設が出ていたんですけど、これから将来的には新温泉町にもそういう複合的な施設ができればいいなと思いますが、ビジョンとしては考えておられるのでしょうか。
- 西村教育長 今言っていただきましたように、センター的な機能を持った施設が1つあったら、そこに子ども相談室があったり、適応指導教室があったり、それから、福祉と連携して、こども食堂も含め、それから児童館、そういった子どもたちの第三の居場所になる施設ができれば、より横との連携もしやすいですし、いいなとは思っています。
- 山本委員 実現の方向に向かったらいいですね。
- 西村教育長 じゃあ、2番目の支援委員会のことを樹岡参事。
- 樹岡参事 先ほど28日に行われた教育支援委員会についてのご質問をいただきました。今回も100名を超える子どもたちについて議論をいただきました。医師の方にもご参加をいただいたんですが、ある医師の方は、平成10年ごろからずっといろんな会議に携わらせてもらっているんだけど、支援の必要な子どもたちがどんどん増えている。その中で、現場としても、いろんな負担であったり、苦労もあると思うんで、しっかり連携を図っていただきたいという意見もいただきました。スクールアシスタントや指導補助員の体制は、現状でほかの市町に比べて充実しているんで、引き続きお願いしたいというご意見もいただいておりますし、その辺りもお答えをさせていただいたところです。特に、今日、教育長のからもありましたが、医療的ケアが必要な子どもに対しまして、町としては看護師をしっかりとつけて、

保護者のニーズ、子どものニーズに応えるような形で進んでいまして、すくすく育っておられて、体が大きくなると、また違ったニーズも出てきたりしていますので、その辺りは、ニーズをしっかりと確認した上で、町として何ができるかということをお互い協議をしながら進めていきたいと思っております。

○西村教育長 山本委員。

○山本委員 この支援委員会にはお医者さんもおられると説明がありましたが、そのほかにはどういったメンバーがおられるんですか。

○西村教育長 樹岡参事。

○樹岡参事 一番多く占めているのは、各学校園の校園長、続いて医師の方が3名、内1名は豊岡市から発達障害等に見識のある医師に参加していただいています。あと、就学に関する連携も図っていく必要があるので、出石特別支援学校みかた校の教諭にもご参加いただいております。その教諭は、普段から巡回教育相談で各学校園を回っていただいていますので、特に認定こども園から小学校、小学校から中学校、また、中学校からその先の進路等についてのアドバイスをいただいたりもしております。それから、健康福祉課から担当職員にも参加していただいております。

○西村教育長 3点目のコミュニケーション・ワークショップなんですけど、この事業は文化庁の事業で、それに豊岡市の河畔劇場が登録されまして、その関係で、ぜひ新温泉町でも事業をしていただきたいというお話があり、こちらからお願いして、実施しております。他市町でもこの事業に乗ってやっておられるところもあります。山本委員。

○山本委員 以前、教育委員会の研修会で豊岡南中学校で平田オリザさんの授業を見学させていただいたことがありましたが、ああいう授業が各学校でされているということですか。

○西村教育長 今回、私が見させていただいたのは、南小学校の5、6年生対象でして、子どもたちに先ずコミュニケーションはジャンケンだということで、ジャンケンから入って、いろんなコミュニケーションの取り方を学び、最後にジェスチャーで人に伝える、舞台上で表現するということまで、2時間のコースだったんですけども、していただきました。その中で、ファシリテーターの4名が各グループでの話合いに耳を傾けて「そこであなたはこんな発言したね、とってもよかったよ」といったような褒める発言をされていました。仲間探しゲームだとか、とにかくゲーム感覚でコミュニケーションを取っていく。平田オリザ先生がやっておられたの

は中学生の段階の授業だったと思うんですけども、今回はその土台づくりというところの授業をしていただきました。実際に見て本当に大切なことだと思いましたし、続けられるよう努力していきたいと思います。

○山本委員 ありがとうございます。現場でもきっと好印象だったんだろうと思いますので、続けていただいて、いい特色にしてください。

○西村教育長 ありがとうございます。校長先生も、それから参加していた教員も、子どもたちの変わっていく姿を見て、とってもよかったということをしていましたし、必要性は感じていると思うので、ぜひ続けていきたいと思います。

○西村教育長 ほかいかがでしょう。中村委員。

○中村委員 不登校と適応指導教室の件についてなんですけども、適応指導教室の利用も含めて、いい方向で進んでいるというお話を聞いて、いい転機が来たんだなと思いつつ聞かせてもらいました。そういう中で、町内では適応指導教室があつて、その中で何かをつかんで進級されたり、登校に導かれたり、そういうことがある中で、年度当初から1人が来ているというのも事実です。適応指導教室に、もう一つ何か工夫が加われば、何か条件が変われば参加できるのにといい思いを持っていらっしゃる方がおられないのかなと考えたときに、例えば、送迎があれば参加できるのとか、昼食が確保できれば参加できるのとか、例えば、朝起きられないし、起きた時には親は仕事でいないから送ってもらえない、そういうときにオンラインで対応できないかとか、例えば、ほかの人と一緒に勉強するなんて無理とか、勉強が追いつかないから小学校の低学年から教えてほしいとか、付きっきりで教えてもらいたいとか、一人一人の実情が違うのが不登校の状況かなと思ったりするんですね。いろんなパターンがある、いろんな課題がある、そういう不登校の方々がこの人数であり、さらに30日に至らない方々も含めて考えたときに、一人一人に適するサポートをもう少し深く考えていただいて、適応指導教室がさらに身近に感じられるものに、使いやすいものになるように、もう一回、一人一人に合ったサポートの在り方というものを追求してもらえたらありがたいなと思います。

適応指導教室は、知る人は知っているが、知らない人はたくさんいるということが現実かなと思います。私はいつも思うんですが、介護にしる教育にしる、人の力で人は動けるということを思ったときに、適応指導教室の人が見える、適応指導教室のやり方が見える、適応指導教室が人にどう対応してくれるのかということが見える、そういう見える適応指導教室というものを、いい意味で、もっともっと発信し

ていただいて、そのことが偏見なく受け入れられる歴史を作っていく必要があると思います。それには年数がかかると思うんですが、いろんなものがそういうことを乗り越えて、偏見をなくしていったという歴史があると思うんで、まだ歴史の浅い不登校の問題、適応指導教室の利用の問題、そういうものをそこから辺からもう一回探っていただきたいなというのが強い願いです。

人は人との触れ合いの中で自分というものを見詰め直すことができるし、自分って捨てたもんじゃないなということを感じさせてくれるのも人ではないかなと思います。そういうことを考えたときに、他県で不登校のセミナーを受講したんですが、そのとき先生が言われたのが、不登校が解決に向かう方法は、愛着関係をつくることだということをおっしゃっていました。安定した愛着関係をつくることによって、安心安全が図れる。安心安全が図れたら、自分に自信が持てるから、探索行動に出る。学校にちょっとでも行ってみようかなとか、趣味にちょっと手をかけてみようかなとか、友達に電話してみようかなとか、あそこの店まで買物に出してみようかなとか、そういう探索行動ができる基本は、愛着関係だと言われていました。もちろん親子の愛着関係が基本なんですけども、先生との愛着関係、これもすごい重要だと思いますし、地域の方など特定の方との愛着関係も含め、どれでもいいから愛着関係がしっかりしていたら、一つでもあれば、探索行動に出られるという自信がつくということが不登校の基本的な今の課題ではないかとおっしゃっていました。そこに介入するのは人であるし、どう関わってくれるのか、その人の何を大切にしてくれるのか、そういうものが安心して得られる、そこに行くとはっきりするということも含めて受け止めてくれる、自分というものと一緒になって考えてくれようとしているという触れ合い、温かさ、アタッチメントもそこにはもちろんあると言われていました。そういうことが、しっかりと見詰め直して、考えていける学びのようなものを適応指導教室に絡められるといいなと思いました。

次に、どうしても適応指導教室になじめない人もおられると思うんです。そのなじめない方にはどうアプローチしていくのか、どう関わっていくのかということも、対象者は少ないにしても、一人一人に真剣にあなたのペースを考えたい、あなたと共に歩みたいという人や場所があるということが大事なのではないかと思います。いろんな学校の様子を聞いたり見たりさせてもらっている中で、どの子にも居場所がある、前回のオンラインの研修会の際に言われていたと思うんですけども、どの子にとっても居心地の良い居場所が必要で、そういう居場所を考えていくことに

よって、誰一人取り残さない学びが実現できるし、一人一人に寄り添った教育、当町が目指す教育の在り方というところにしっかり根差していけるのではないかと思います。

最後に、その人とどう関わっていいのかということもそうなんですけども、行きたい学校をつくるという議題があまり上がったことがなかったなと思ったんですけども、誰もが行きたい学校、行ってみたいと思う学校、あの先生に会ってみたいという先生、そういうことに力を入れるということも、側面からも底辺からも大事なのではないかなと思います。誰一人取り残さないというのはよく出てくることなんですけども、人は誰も弱さを持っている、その弱さを持っている子どもにしっかりと向き合っていく。そして、学校の先生もクラスメイトも同じ学校の仲間も、そしてコミュニティも地域住民も、そういうふうな一本化された大切なものを軸に据えて関わっていく、行きやすい学校、魅力ある学校というものを大上段に据えて取り組んでいただけたらありがたいなと思います。

○西村教育長 ありがとうございます。樹岡参事。

○樹岡参事 大きく5点についてお話をいただきました。先ず適応指導教室の様々なニーズについてということですが、送迎であったり、オンラインであったり、低学力の子どもへの対応であったり、いろんなニーズについてお話をいただきました。我々も課題意識も持っておりまして、例えば、教育長も県に要望をいろいろ出していただいた中で、ひょうごがんばり学びタイムという事業で不登校の対応を図れるよう拡大されましたので、それを活用して、今までは男性の指導者しかいなかったんですけども、今年度は女性の方にも指導員として協力をお願いして、調理実習的なことをやってみようかなということを考えております。また、オンラインの学習につきましては、今、主に文化会館で活動が行っているんですけども、文化会館のネット環境を整えましたし、タブレットを活用できないかということで学校の担任と指導教室の指導員とが調整を行っている状況もございます。それ以外にも、今、浜坂地域にしかないのも、温泉地域でできる方法はないかとか、検討させていただいているところであります。

2点目です。適応指導教室の周知についてですが、一昨年度、新温泉町教育委員会のダイジェスト版の中に、適応指導教室についても記載させていただきました。できるところから一歩ずつ周知を図っているところでありますが、現状で十分とは言えませんので、引き続き工夫しながら取り組んでまいりたいと思います。

3点目、愛着についてのお話をいただきました。この愛着については、教育長も取り組まなければならないという意識を強く持たれていて、今年度、新温泉町の町立教育研修所の研修会で、愛着に関する講師を呼んで研修会を行ったところであります。現場の教員はその話を食い入るように聞いていて、これを1回限りで終わらず継続して愛着形成に関する研修会を持ってもらいたい、そういう要望ももらっているところであります。

4点目です。適応指導教室に来づらい子どもたちに対しての取組なんですけども、ちょうど昨日、健康福祉課と生徒指導担当者が意見交換をする会を持たせていただきました。不登校の子どももそうなんですけども、30日に満たないが課題のあるご家庭、支援をしていく必要がある家庭もありますので、その辺りの情報を共有し、どういうところを最優先に取り組まなければならないかということの共有を図らせていただいているところです。

最後、5点目、行きたい学校をしっかりと築いていくべきということにつきまして、常々教育長が校園長に伝えているところであります。有名なところでいえば、木村泰子先生、「みんなの学校」というビデオを作られた有名な先生なんですけども、その先生とオンラインでつないで研修会を開いております。学校に通う全ての子どもが心地よい学校づくりというのを木村先生は取り組まれていまして、新温泉町でもそういう学校を目指していきたいということを教育長から伝えていただいたところであります。

○西村教育長 今、中村委員から言っていたようなこと、温泉地域のことだとか、送迎のことだとか、いろいろ課題はありますが、適応指導教室の様子を多くの人に知っていただけるように、学校を通じて保護者の皆様に伝えていっているところです。不登校の複合的なこと、いろんな絡みがあるわけですが、一人一人のケース、学校の先生方もそれに対応しながら、いろんな機関とも連携を図りながら対応しておりますけれども、あしたも行きたい学校があれば、温かい雰囲気がある学校があれば、そういった学校をみんなで作っていただければと思います。各学校にいろんなことをお伝えしながら取り組んでいっているところで、愛着のことが出ましたけど、そこを掘り下げて、いろんなことを学んでいくと、小さいときからのつながる教育が大事だと、その年齢で得なければならない愛着、愛情をしっかりともらっているということが大事だと感じていますし、講演をいただいた先生には、どこの年齢でも愛着の問題は解決できる糸口があるということもいただいていますので、いろんな

形で今後も取り組んでいきたいと思ひます。家庭だけに限らず、誰か近くにいる大人が愛着形成できる相手であればいいなと、そんな人が増えたらいいなと思ひています。適応指導教室は3年目になるんですけれども、運営していく中でいろいろな課題がありまして、家庭訪問に行っても会えないこともありますし、保護者とつながるのも難しいケースもあります。でも、根気強く取り組んできたことで、今回、ちょっとでも進めたかなと思ひます。より多くの人に知っていただいて、利用していただけるような、先ほど出ましたセンター的な機能があれば、いろんな人がもっと救えるかなと私自身思ひています。しっかりと取り組んでいきたいと思ひます。中村委員。

○中村委員 この間の愛着関係の研修をされたというのは、先生方を対象にということですか。

○西村教育長 そうです。

○中村委員 関係する方々が、そのことを聞きながら、はっと我に返るというようなことも多いようなんです。私が参加した研修会も、不登校の保護者の方が、多くはないけど来ておられました。その中で、先生の引き出し方がもうまいということもあって、実はこういう経緯があって、こういうこともあって、今こういう状態だと話されて、1人が話されたら次の方も話されて、言葉に出ることによって、不安の中に安心が見えてくるんだらうなと思ひたんです。そういうことを一般の方々も聞かれる中で、一緒に学んでいくということで底上げも図れるかなと思ひますし、そういう機会をお願いしたいなと思ひます。

○西村教育長 分かりました。事例検討まで進められたらいいなという思ひも持っておりますので、何とか一歩一歩進んで行きたいなと思ひています。中村委員。

○中村委員 私が参加した研修会の講師は鳥取の方なんです。その方は、心理士の資格を持たれていて、学校を退職された方で、ご自分の子どもさんも不登校の経験があって、そのことを機に心理の勉強をされて、今そういう活動をされているんです。いろんな相談を受けられたり、子どもがそこに通って勉強したりというふうなことで、いろんなルートがあるということも大事かなと思ひますし、何度でも訪問していただけるような話もされていまして、機会があれば、コンタクトを取っていただければと思ひます。

○西村教育長 ありがとうございます。連携していきたいと思ひます。では、ほかよろしいでしょうか。山本委員。

- 山本委員 今お話に出ていた、適応指導教室を多くの方に周知するとか、保護者に周知するという、そういう取組、町の広報にもそういったことは出ているんでしょうけど、例えば、適応指導教室ってこういう教室だみたいな、小さなリーフレットみたいなものは作られているんですかね。
- 西村教育長 樹岡参事。
- 樹岡参事 適応指導教室のチラシは作っています。
- 山本委員 それは4月の段階で学校を通じて保護者に配布されているんですよね。
- 樹岡参事 はい。関心のある保護者の方とか、そういう方々にそのチラシを配っています。
- 山本委員 関心のある人だけじゃなくて、学校を通じて、全部にそういうものを配布してあげたらもっと周知が図れると思いますし、今はオンラインとか、タブレットが1人1台でこの子たちの分も当然あるでしょうから、適応指導教室の中でそういうものが使える環境をつくっていただいて、子どもによっては、そこでやり取りができるかもしれないし、簡単な学習であればできるかもしれない。学校訪問のときに実際そういうことをやっていた学校がありましたね。ですので、そこに来るのを待っているというだけじゃなくて、そういう機会をこちらからもどんどん提供してあげて、何か今までとは違う不登校の対応策というか、それが今話を聞いていたら、取れるかとも思いましたので、検討してみてください。
- 西脇副課長 よろしいですか。
- 西村教育長 西脇副課長。
- 西脇副課長 すみません、情報の伝え方というところなんですけど、今、社会教育、生涯学習の部分ですごく苦慮しているところがあります。例えば、生涯教育、この間PTAの男女共同参画推進の事業をやったんですけども、当然全員に配りたくて、みんなに見てほしいというところで、一応チラシを全員に配ったんですが、参加者はなかなか少ない。よく聞いてみると、チラシを持って帰っても見ていない人がすごく多かったんです。今はオンラインの時代なので、スマホの情報、例えば学校から来る情報も全てスマホに入って来る情報を参考にしているということがあるので、今、町としてはすごく遅れていますけど、LINEシステム、WORKSを使って、イベント情報であるとか、学校にそれぞれ、学校のチェックボックスを入れて、今後そこに直接アプローチができるような仕組みを考えているところで、生涯学習、生涯教育のイベント関係もそこに入れてもらおうとしているところです。なので、

今後、学校教育においても大事な情報は、みんなが見ていい情報に限られるとは思いますが、皆さんが見やすい環境をつくるというのは、とても大事なことで、すぐにでもやらないといけないかなと思います。特に、コロナ禍を経てそのことが加速しているように感じていますので、スマホに直接アプローチできるような仕組みが今後必要かなと思います。

○山本委員 確かに、僕らの時代は紙媒体しかなかったですけど、そうですね、言われるとおりで、本当に、見られないという方もたくさんあるみたいですね。時代も変わって、やり方も、今の話を聞いていたら随分変わるなと思って。本当に有効な方法であれば、どんどんしていただきたい、それが少しでも手助けになるのではと思います。

○西村教育長 ありがとうございます。中村委員。

○中村委員 今の時代、若い人はオンラインのほうが早いし、紙を一々見てということは少なくなっている現実というのは確かだと思います。ただ、保護者、子どもとの関係だけに伝わればいいということと、地域が理解して包んでいくということとの両方があると思います。やはり紙でないと伝わらないということもありますし、一番大事なのは、対象の方々に前を向いてもらいたいんだ、みんなで助け合いたいんだという熱意をそれに込めて伝えてもらうってということなんだろうと思います。

○西村教育長 ありがとうございます。いろんな方法を使いながら、子どもたちに返っていくような、みんなで子どもを育てるというところに返っていくような方策で取り組んでいきたいと思っています。ありがとうございます。ここで休憩を入れたいと思います。11時30分まで取らせていただきます。

\*\*\*\*\* 休憩 午前11時15分 \*\*\*\*\*

\*\*\*\*\* 再開 午前11時30分 \*\*\*\*\*

○西村教育長 再開します。こども教育課の所管事務報告をお願いします。

○中島課長 (議事日程資料2～6ページを説明)

○吉田課長補佐 (別冊資料を説明)

○西村教育長 こども教育課の所管事務報告について説明が終わりました。ご質問等ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。よろしければ、次に生涯

教育課の所管事務報告をお願いします。

○谷渕課長（議事日程資料 7～21 ページを説明）

○西脇副課長（当日配布資料を説明）

○西村教育長 生涯教育課の報告が終わりました。何かございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。よろしければ、次に進めさせていただきます。日程第5 その他 次回新温泉町教育委員会日程について事務局よりお願いします。

○吉田課長補佐 次回は11月に入ってしまいますが、11月4日（金）午前9時45分開始でお願いしたいと思います。会場は後日お知らせいたします。

○西村教育長 ご予定はいかがでしょうか。（委員全員了解）それでは次回は11月4日（金）午前9時45分開始でお願いします。それでは、閉会の挨拶を宮口教育長職務代理者にお願いします。

○宮口教育長職務代理者 今日は適応教室の関係でいろんな意見が出てきました。ハード面をしっかりと整えながら、ソフト面でいかにしっかりと支えていくかということが大事じゃないかなと思いますし、ここでの議論を受けて事務局のほうでいろんな手段を使って、町民の方に少しでも理解していただき、そして、子どもたちが安心して参加できる場所を提供していただけたらと思います。今日は、空気のいい素晴らしい環境の中で会議を進めることができよかったですと思います。ご苦労さまでした。ありがとうございました。

\*\*\*\*\*

閉会 午前11時52分

\*\*\*\*\*